

学校評価シート

東海市立大田小学校 住 所 東海市大田町細田 2 3 番地 電話番号 0 5 6 2 (3 2) 6 2 7 2 児童/生徒 5 2 4 名 校長名 梶 江 竜 秀 2 4 学級 (内 特支 6)		○ 教育目標 <ul style="list-style-type: none"> 仲良く 明るく 元気よく 	資料等
		○ 地域の特徴 <ul style="list-style-type: none"> 大田町、木田町、中央町の三町内に分かれるもののコミュニティを基盤にまとまりがあり、学校にも協力的である。 	

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析 A: 良い結果 B: やや課題あり C: 課題あり	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和7年2月5日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知	①基礎基本の確実な定着と活用 ・「分かる・できる・知る喜び」が味わえる授業づくり	・児童2「授業は楽しい」 ・児童3「わかりやすい授業をしてくれる」 ・児童4「先生の話をしっかり聞いている」 ・保護者2「学校は、わかりやすい授業をしている」 ・保護者3「学校は学力の向上に努めている。」	(評価B) 児童3は91.2%、児童4は91.6%、保護者2は83.5%、保護者3は83.1%と高い水準にある。児童は微減であるが、保護者は昨年度より上昇している。児童2「授業は楽しい」と答えた児童が75.2%と昨年度よりかなり低下している。	<学習基盤の確立> 児童の授業に対する意識は確実に向上し、保護者にも授業参観など授業を見ていただく機会も増えている。タブレットも使用頻度が増え、児童の意欲につながっている。今後も、家庭との連携、学習環境整備に努めていく。 <授業力向上> タブレット等のICT機器を授業で活用する場面が増え、児童の理解は向上している。一方で、タブレットを使うと楽しい、使わないと楽しくないという傾向がある。タブレットは手段であることから、内容の充実を中心に、今後も教員の研修に取り組んでいく。	・タブレットの使用は学習意欲向上に繋がっていることは間違いないと思うが、視力低下や目を合わせての会話の減少など、内容を充実させる以外にも課題があると思う。 ・教員の研修等、教員負担が懸念される。 ・ゲーム感覚、興味を引くという点で楽しんで授業に取り組めるのは利点とも言えるかもしれないが、やはり書くことの大切さも大事にしなければと感じる。最近の児童は筆圧が弱くなってきていて、6Bや8Bといった聞いたこともないような鉛筆を使う学校もあると聞いて驚いている。 ・保護者に授業参観などが増えているのは、学校での姿を見ることができ大変よい。	・現行学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」の視点から、今年度取り組んだ「児童同士がつながる」ことをテーマに、現職主任を中心に、より一層の授業改善を今後も進めていく。 ・学年主任主導の下、各学年で家庭学習の内容や課題の出し方などを工夫し、家庭学習や望ましい学習習慣定着を図るとともに、通信等を活用し、保護者への情報発信を行う。 ・タブレット端末を含めたICT機器の活用と児童の対話的な学びを軸においた授業を各担任が積極的に行っていく。
	②学習基盤の確立 ・学習環境整備(学習規律の定着と家庭学習の習慣化)	・児童8「忘れ物をしていない」 ・児童9「家庭学習をしっかりと行っている」 ・保護者17「家庭学習の習慣が身についている」	(評価B) 児童8は77.8%、児童9が92.9%であり、家庭での学習の重要性を意識した取組の成果が表れている。一方で、保護者17が72.6%となっている。昨年度に比べ上昇したものの、例年の水準には到達していない。	<あいさつの励行> 児童が主体的にあいさつに取り組めていることは肌で感じているが、まだ全員十分であるとは言えない。あいさつの意識を高めるため、児童会、生活委員会を中心とした活動を進めていく。また、地域や保護者と連携をしているあいさつ運動を継続する。 <読書活動の充実> 読書への意識が高い児童が多い。さらに多くの児童が読書に親しむことができるように、図書委員会やボランティアによる読み聞かせなどの活動を拡充していく。	・いろいろな事件もあり、あいさつと言えど知らない大人が児童に声を掛けてよいのか迷う。あいさつが返ってこない方が自己防衛ができていないんだと思ってしまうことがある。まずは大人同士が元氣にあいさつを合せて、コミュニケーションが取りやすい地域にする必要がある。 ・本来は家庭が担うべきだが、学校生活で養われる心の成長を今後もお願いしたい。 ・近所付き合いが減ってきている近年では大人でさえもあいさつが減っている。SNSの発達により顔を合わせなくても会話ができるのも、便利になる反面、何か大切なものを失ってしまうのではと心配になる。 ・積極的にあいさつもしくは声かけをすること、面と向かって話をするの大切さも伝えて欲しい。 ・あいさつ意識向上のため、あいさつ運動活動を進めている取組はとてもよい。 ・廊下であいさつをしてくれる児童が昨年より増えている。	・PTA役員・委員を中心に、あいさつ運動を毎月0の日に行う。校内でも、日常の教員による率先垂範であいさつへの意識を更に高めていく。合わせて、不審者対応についても学級指導を充実させ、安全意識の向上を図る。 ・道徳教育推進教師が中心となり、道徳的価値を高め、日常生活での実践力向上を図る。また、保護者にわかりやすい評価方法の工夫を進める。 ・生徒指導部と特別活動指導部を中心に、全職員で市で定めたいじめ防止宣言を意識した教育活動を進め、いじめのない学校を目指す。 ・読書ボランティアを引き続き行い、読書活動のよりよい充実につなげる。
	③現職教育・研修会の充実と教師個々の資質向上、授業力向上	・教員2「教材研究に努め、わかる授業を実践している」 ・教員3「研修会等に参加するなど、力量向上に努めている」 ・教員4「基礎学力の定着を意識している」	(評価A) 教員2は96.5%、3は86.2%、4は93.1%である。教員3はあまり変化していないものの、教員2、4に関しては、昨年度より上昇しており、2については10%以上の上昇である。	<道徳教育の推進> 学校が意識して取り組んでいることが保護者にしっかり伝わっている。今後も「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりを継続して進めるとともに、道徳授業の参観や評価を通じ、保護者の理解を更に図っていく。	・酷暑日が多くなっているため、各教室、体育館へのエアコン設置は急務である。 ・毎日朝食を食べてきている子が100%でないことが残念。さわやかカードでその旨申告しなければいけないのは親としてとてもプレッシャーだが、パンだけヨーグルトだけの日があってもよいので、毎日何か食べて登校させてあげてほしいと思った。 ・年間行事の都合もあることは重々承知の上で、運動会、プールの授業など、気候に合わせた指導時季を検討する必要が出てきているのではないかと感じる。 ・自分の命を守る判断力、行動を育む安全教室や運動を楽しみ、進んで体力づくりをする力が育まれていると思う。	
徳	①あいさつと規範意識の向上	・児童12「毎朝、大きな声であいさつをしている」 ・保護者16「家庭や地域の方にあいさつをしている」 ・地域3「子どもたちは地域の方にあいさつができています」 ・児童15「きまりを守って学校生活をしている」 ・児童16「掃除や係活動をしっかりと行っている」	(評価B) あいさつでは児童71.7%、保護者72.1%、地域58.2%である。昨年に比べ、児童は微増である。しかし、保護者は若干、地域は大幅に低下している。 児童の規範意識は高く、数値も児童15は92.5%、児童16は93.4%と高水準であるが、昨年度よりは低下している。	<基本的生活習慣の定着> 保護者の協力により、よい生活習慣が定着している児童が多い。今後も学校保健委員会やさわやかカードを通じて、家庭への啓発や協力を求めていく。 <危機対応能力の向上> 保護者の災害・犯罪に対する安全意識が向上し、学校安全への期待も高いと考えられる。過去の事例等を参考に訓練内容や実施方法の改善を続けていく。 <運動に親しむ機会の確保> 天候の悪化や熱中症対策のため、外遊びができる時間が減ってきている。活動ができるときは、引き続き外遊びを励行していく。また、児童会や運動・保健委員会などで楽しい活動を企画していく。	・保健主事、養護教諭が中心となり、「さわやかカード」を継続して実施し、児童の生活習慣の課題を洗い出し、校医等の指導を受けながら課題解決に向けた対策を推進する。さらに出てきた課題を元に、学校保健委員会などで取り上げていく。 ・校務主任が中心となり、児童、職員の危機対応能力向上に向けた取組を進める。 ・昨年度末新たに設置された遊具等、運動場の環境を生かし、体育主任が中心となり、日々の遊びの活動を通した心と体の健康づくりを継続する。 ・引き続き外遊びの奨励、体育主任が主体となってドッジボールコートの整備、縄跳び活動の充実など、体力づくりの取組について検討する。	
	②体験活動と読書活動を重視し、豊かな情操を培う。	・児童11「読書をすることが好きである」 ・保護者18「子どもは、本を読む習慣が身についている」	(評価B) 児童は73.4%で昨年度より若干低下している。しかし、保護者55.7%であるが昨年度より向上している。家庭での状況と学校での状況に少し開きがある。	<支援協議会活動の充実> 支援体制は充実し、参加者数も増えているが、まだまだ情報が地域に十分行き届いていないと思われる。今後も、ブログ等を使って学校の様子を更に地域に伝えながら、一層の支援ボランティアの拡充を進めていく。 <地域行事への積極的参加> 児童の意識は変化しておらず、地域行事には変わらず参加している。しかしそれを目にする大人の参加が減少していると思われる。児童の様子を伝えるために、学校ニュースやブログ等でしっかり情宣していく。	・地域行事への積極的参加は、町内会・自治会に加入していない世帯が多く、役員を務めたり会費を払ったりしていない世帯には参加を呼びかけられないことが、分析結果に出ている。 ・「支援ボランティア」は、日時指定があると参加できないことが多いので、学校の負担にならない程度で行ける時にできるシステムだとありがたい。 ・地域行事、集まりを通じて、人との関わり方やコミュニケーションが児童にとってもよい機会なので、積極的に参加して欲しい。	
	③道徳教育の推進	・保護者4「学校は、道徳や体験活動などを通して、豊かな心を育てようとしている」	(評価A) 道徳については、保護者設問4は85.4%である。昨年より微増ではあるが、上昇している。			
体	①基本的生活習慣の定着	・児童18「早寝、早起きができている」 ・児童19「毎朝、朝ごはんを食べてきている」 ・児童20「毎食後、歯みがきをしている」	(評価A) 児童18は74.8%、児童19は94.3%、児童20は95.1%で、昨年度に比べ、すべての項目で同等または上昇している。			
	②安全への意識を高める。	・児童21「いつも交通安全に気を付けている」 ・児童22「地震や津波が起きたらどうしたらよいかわかっている」 ・保護者7「非常時の対応など、安全指導をしっかりと行っている」	(評価A) 児童21は97.8%、児童22は92.1%、保護者7は82.2%であり、児童21は微増、22は微減で、保護者7は微増であるが、いずれも高水準を保っている。			
	③心と体の健全育成を図る。	・児童17「大放課には元気に外で遊んでいる」 ・保護者5「学校は、心と体の健康づくりに向けた取り組みをしっかりと行っている」	(評価B) 保護者5は79.9%で、昨年度よりかなり上昇している。体力づくりについては、児童設問17で38.5%と昨年度より若干ではあるが、減少している。			
地域連携	①学校支援協議会を通して、教育的人材による支援体制を整備する。	□学校支援ボランティアについて ・保護者12「学校支援ボランティアの参加・協力で、教育活動や環境整備が充実してきている」 ・地域10「学校支援ボランティアに参加したいと思っている」	(評価B) 保護者12は、76.8%で、昨年より上昇している。地域10は、32.8%で数値は下がっているものの、積極的に支援ボランティアに参加している人は実際にはかなり増えている。			
		□地域との連携について ・児童23「地域の行事に参加している」 ・保護者19「地域の行事に積極的に参加させている」 ・地域1「大田小学校はよい学校だと思う」 ・地域4「学校は、地域の活動や行事によく協力している」	(評価B) 児童23は77.9%、保護者19は52.6%、地域4は50.7%で、児童は変化はないが、保護者、地域はかなり減少している。特に地域は、分からないと答えている人が大幅に増えている。			